

いきいき Health Information

健康だより

●笠懸保健センター ☎(76)2510
●大間々保健センター ☎(72)2211
●東支所 ☎(76)0984

問い合わせ先

スリムアップピラティス

体の奥の筋肉を刺激し、姿勢や体のバランスを整えます。

日時 7月5日・12日・26日の
火曜日 午前10時～11時30分

会場 桐生大学グリー
ンアリーナ

対象 市内在住の人
定員 30人(先着順)

講師 キラウエア観奈子さん
(健康運動指導士)

持参する物 動きやすい服装・
ヨガマットまたは大きめの



バスタオル・汗拭き用タオル・飲み物

申込方法 開催初日の前日までに各保健センターへ

子宮頸がん検診

子宮頸がんは、女性特有の病気で、20～30歳代の若年層で急増しています。ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスが関係し、性交渉で感染します。定期的な検診により早期発見が可能です。20歳を過ぎたら定期的に(2年に1回)検診を受け、大切な体を守りましょう。

市の子宮頸がん個別検診は7月から受けられます。対象者へ、検診のお知らせを郵送しましたのでご確認ください。

『ぐんまの安心がんサポートブック』配布

県内のがん医療の中心となる病院や、がんに関する相談窓口などを紹介した群馬県作成の冊子を無料で配布します。ぜひご利用ください。

希望する人は、各保健センターにお越しください。

発達障害を理解しましょう

「発達障害」という言葉を知ったことがありますか。発達障害のある人は、生まれつき脳機能の発達の仕方に偏りがあるため、対人関係をつくるのが苦手です。これは親の育て方や教育の問題ではありません。

年齢、生活環境などによって発達障害の特性(症状)は違ってきます。生活のしにくさが目立ちますが、一方で優れた能力を発揮している場合もあり、周囲からは理解されにくいこともあります。また、成長するにつれ、本人も自身の苦手な部分に気づき、生きにくさを感じることもあるかもしれません。障害の特性を本人や家族・周囲の人がよく理解し、その人にあった支援を受けたり、環境を整え日常の過ごし方を工夫することなどで、本来持っている力がしっかり生かされるようになります。

乳児期に見られる特徴をいくつか紹介しますが、発達障害にはさまざまな特徴がありこれが全てではありません。また、当てはまるものがあったとしても、それだけで発達障害と決められるものではありません。

支援体制も少しずつ整い、相談窓口も充実してきています。市でも各保健センターや社会福祉課で相談をお受けしていますのでご連絡ください。

心配があれば保健センターなどへ相談を

乳幼児期に見られる発達障害の特徴

視線が合わない…声をかけても視線を合わせようとせず、目をそらしたりする。

抱っこしにくい…抱っこをすると後ろへのけぞったり、触られることを嫌がったりする。

指差しをしない…指差しで要求を伝えられず、人の手をつかんで何かをさせようとする。

言葉の発達が遅い…言葉に反応を示さず音に反応する。言葉を理解しても発語がうまくできない。言われた言葉をそのまま返すオウム返しが見られる。

こだわり…興味のある遊びをずっとしているなど限られたものに興味を持ち執着する。また、服が濡れたり汚れたりするのを極端に嫌がり、何度も着替えをしたがる。

偏食…決まったものしか食べない。同じ食べ物でも同じメーカーのものでなければ食べない。

動き回る…落ち着きがなく、じっとしてられない。友達と同じ行動がとれない。外出時も親と離れて平気でどこかに行ってしまう。

